

2 物価

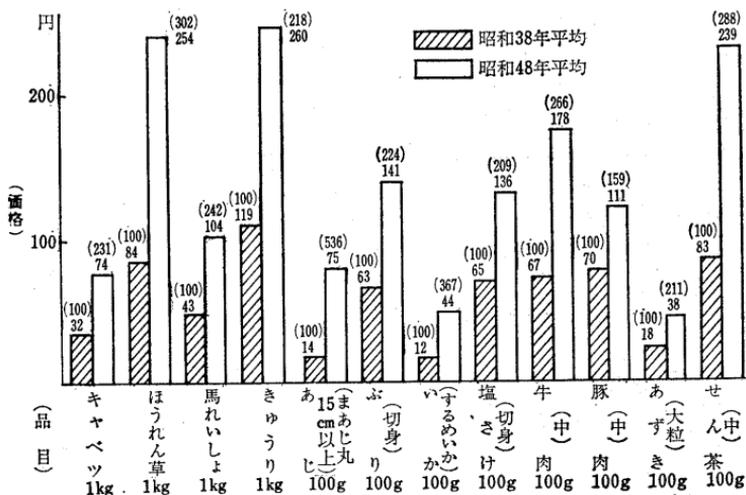


横浜の一〇年

あじは五・四倍、牛肉は二・七倍に

とどまる所を知らぬ物価の上昇のために、市民の生活は苦しくなる一方である。たとえば、この一〇年間にあじが約五・四倍に、牛肉が約二・七倍に、といった具合に上っており(図—4)、消費者物価は、昭和四十八年には前年にくらべて一二・五%とこれまでにない二桁の値上りを記録している。こうした物価の上昇は、衣料、食料品などに大きく、狂乱物価といわれた四十八年末から四十九年にかけての物価上昇は異常といわざるをえない(図—5)。物価対策は根本的には、国の施策によらなければ解決できない点が大部分であるが、こうした高物価と物不足の対策として、横浜市は、市民生活関連物資緊急対策本部を設けて市民生活を守る努力をつづけ、また市民の台所に新鮮な食料品を安定供給するため、市場取扱量を増加させ(図—6)、四十八年十一月には南部市場を開設してこれに努めている。

図-4 食料品の値上り

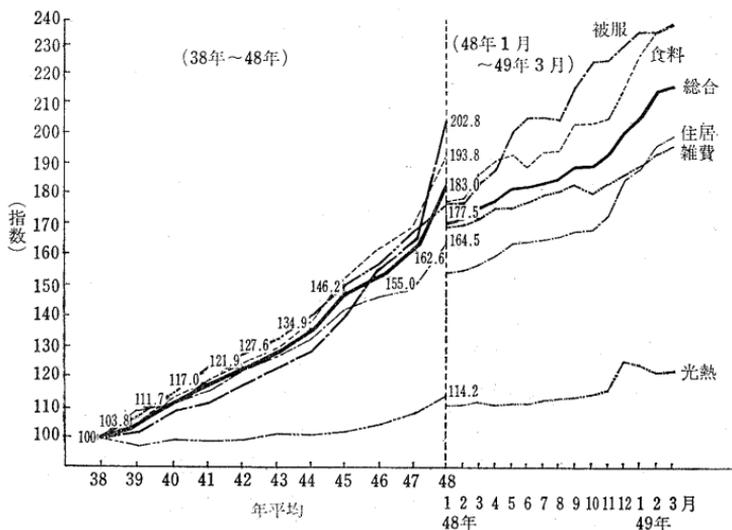


【注】 () は昭和38年を100とした指数

【資料】「横浜市の物価昭和48年版」「第43回横浜市統計書」



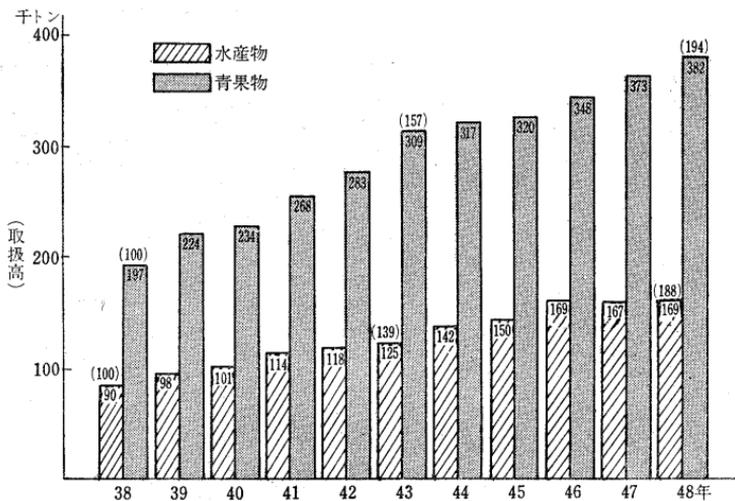
図-5 横浜市の消費者物価指数



〔注〕 () は昭和38年を100とした指数

〔資料〕 「横浜市の物価昭和48年版」 「消費者物価指数49年1月～3月」 (総理府統計局)

図-6 中央卸売市場取扱高の推移



〔注〕 ① 48年分については南部市場取扱高を含む ② () は昭和38年を100とした指数

〔資料〕 昭和38年～47年「横浜市統計書」、48年「市場月報」